

モニタリング結果報告書

施 設 神奈川県立神奈川近代文学館
 指定管理者 (公財) 神奈川文学振興会
 施設所管課 県民局くらし文化部文化課

(平成 22 年度 下半期)

管理運営状況総括

1 月例報告書によるモニタリングの概況

報告月	受理日	確認通知日	備考(確認事項等)
10月	11月 9日	11月 11日	月報等で適切に業務が行われていることを確認した。
11月	12月 10日	12月 20日	月報等で適切に業務が行われていることを確認した。
12月	1月 11日	1月 14日	月報等で適切に業務が行われていることを確認した。
1月	2月 10日	2月 15日	月報等で適切に業務が行われていることを確認した。
2月	3月 9日	3月 15日	月報等で適切に業務が行われていることを確認した。
3月	4月 8日	4月 13日	月報等で適切に業務が行われていることを確認した。

2 指定管理者の選定理由にある取組み等の実施状況

(1) 提案内容の達成度

A: 提案を上回る B: 提案どおり C: 提案を下回る

(2) 実施状況等

指定管理者の選定に際して、サービスの向上や利用促進の観点から提案された各取組み等について、提案内容の要旨とそれに対応する形で実績又は今後の見込みを記載する。

<提案内容の概要>

人的財産とネットワークに基づく卓越した資料収集能力等を生かして幅広い事業を提案

提案内容の概要

- ① より多くの来館者を獲得するために、様々なニーズに応じた展示を企画、開催する。
(集客をめざす展示、独創性のある展示、外に広がる展示など)
- ② インターネットによる所蔵資料情報の公開を進める。
- ③ 専門館として文学のレファレンスにきめ細かく対応する。
- ④ 館所蔵、新収蔵資料を柱に構成した展覧会も積極的に開催する。

<実施状況>

- ①・④ 10月～11月 特別展^{※1} 「小泉八雲展」を実施 入場者数 9,143名
 11月～1月 常設展 「文学の森へ」を実施 入場者数 2,026名
 1月～2月 常設展 「中山義秀展」を実施 入場者数 1,784名
 3月 常設展 荻原井泉水と「層雲」100周年記念展、
 「新収蔵資料展」を実施 入場者数 550名
 (年間計 32,362名)
- ② 近代文学館のホームページで実施
 ホームページアクセス件数 58,716件 (年間計 130,562件)
 (うち蔵書アクセス件数 18,026件 (年間計 42,624件))
- ③ レファレンス^{※2}対応 103件 (年間計 256件)

※1 特別展：毎年2つの展示室で開催する大規模な展覧会。年2回(春と秋)開催。

※2 レファレンス：文学に関する情報ないし資料等の各種問い合わせに対し、仲介的な立場から援助するサービス。利用案内、資料提供なども含む。専門的な質問も数多く、公共図書館等他施設からの照会もある。

3 収支状況（単位：千円）注：千円未満を切捨てているため、合計は一致しません。

	収 入 額			支出額	収支差額	
	指定管理料	利用料金 (前年同月料 金額)	その他収入			
年間予算額	415,258	402,771	6,274	6,213	415,258	0
上半期計 (a)	239,782	179,024	4,896 (4,914)	55,862	219,049	20,733
下半期計 (b)	231,559	223,747	3,569 (5,034)	4,242	252,293	△20,733
10月	36,832	32,583	1,368 (1,918)	2,881	27,461	9,371
11月	32,257	30,056	1,172 (1,855)	1,028	32,878	△621
12月	52,087	51,722	336 (363)	29	45,096	6,990
1月	27,199	26,822	274 (329)	102	32,554	△5,354
2月	31,819	31,409	291 (291)	118	32,857	△1,038
3月	51,362	51,155	125 (275)	82	81,444	△30,082
合計 (a+b)	471,342	402,771	8,466 (9,948)	60,105	471,342	0

- 1 指定管理者の収入を記載する（県の収入である「使用料」は含まない）。
- 2 「その他収入」は、都市公園の駐車場収入、雑収入、寄付金収入など指定管理料と利用料金以外のすべての収入を記載する。

収支状況に関する意見等

- ・ 半期計欄の収支差額が、収入額又は支出額のうち低い方の額の1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。
- ・ また、収支差額に1割以上プラスが生じた主な理由が、人件費の削減である場合は、年度協定における人員配置計画と比較し、合理性が認められるか否かを記載する。
- ・ 年間予算額の収支が均衡していない場合は、その理由を記載する。

- ・ 前年同期に比較して特別展、夏の企画展、3月など利用料金収入の伸びが若干足りなかったが、年度収入予算は達成した。
- ・ 空調用熱源の点検や空調機周りの機器整備工事は、展示室への影響が大きいため、事前に準備はしているが、工事そのものは中間期の10月以降、冬季に集中的に実施している。
- ・ 展覧会開催経費の精算手続きの遅滞（履行後の精算、請求書の未達等）に対処して執行時期を調整。特に資料輸送費は、上半期が運送会社の繁忙期にあたるため、精算手続きや処理が滞ることが多く、例年執行が遅れ気味である。パネル制作などにも同様の傾向が見られる。

(今期に行った資本的な収入及び支出等の状況)

	内容	金額(千円)
収入の状況	なし	
支出の状況	なし	
積立等の状況	なし	(期首)
		(期末)

収入の状況：定期預金の取り崩し、借入れによる収入があった場合等は、その旨を必ず記載する。

支出の状況：車両の購入、施設の増改築、また定期預金の積み立てを支出に含めた場合等は、その内容を必ず記載する。

積立等の状況：積立・借入れ等がある場合は、その内容（施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等）、当該期首及び期末の金額を必ず記載する。

4 利用状況

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計 (a)	31,915人	35,437人	△9.9%
下半期計 (b)	24,762人	26,383人	△6.1%
10月	8,294人	7,831人	5.9%
11月	6,960人	7,331人	△5.1%
12月	3,239人	3,311人	△2.2%
1月	2,117人	2,854人	△25.8%
2月	2,715人	2,483人	9.3%
3月	1,437人	2,573人	△44.2%
合計(a+b)	56,677人	61,820人	△8.3%

半期計欄の前年対比増減率が、1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。

- 1月の利用者数減は前年同期と比較して、主に高齢者の入館がふるわなかったことによる。中山義秀は近年必ずしも多くの読者を得ているとは言い難い作家であるが、中山資料を豊富に有する当館にとって開催することは意義深い。今回は文学セミナーや中山原作の文芸映画会など関連した事業を併せて開催し、中山義秀の文学作品について充分普及を図る事ができたと考える。
- 3月の利用者数減は東日本大震災による閲覧室等の開館時間の変更、事業の中止、利用者の出控え等の影響が考えられる。会議室利用者は約4割減であった。講演会、映画会などの事業を中止したため、展示館2階の行事会場から展覧会会場へと誘導されるシャワー効果も見込めなくなった。また例年3月下旬は、お花見を兼ねた展示観覧者が多く見受けられたが、本年は観覧者が減少したことも大きい。

5 苦情・要望等の状況

(施設受付分)

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
10月	0	0	0	0	29	29
11月	0	0	0	0	26	26
12月	0	0	0	0	7	7
1月	0	0	0	0	1	1
2月	0	0	0	0	4	4
3月	0	0	0	0	3	3

(施設所管課受付分)

報告月	口頭	文書	合計
10月	0	0	0
11月	0	0	0
12月	0	0	0
1月	0	0	0
2月	0	0	0
3月	0	0	0

6 特筆すべき苦情・要望等及び対応状況

類似の苦情や要望が多く寄せられたもの、苦情や要望をもとに対応した取組みが利用者に評価されたもの、苦情や要望のうち対応したいと考えるが、諸般の事情により対応できないものなどを記載する。

分野	概要	対応状況
施設・設備		
職員対応		
事業内容	<p>地味でも知られざる宝石のような人材を取り上げて下さい</p> <p>こうした貴重な文学館は日本人の財産として大事に保存されるべきであると考えている。もっと宣伝も必要</p>	<p>荻原井泉水と「層雲」100周年記念展の開催</p> <p>平成 23 年度新たに横浜市交通局の協賛を得て、横浜市営地下鉄車両内にポスターを掲示。</p>
その他		

7 事故や不祥事等の発生状況

利用者や職員が死傷した場合、業務の実施において法令違反等による指導や処分を受けた場合及び個人情報や公金の管理等において不適切な取扱い等があった場合は、その概要と対応状況を記載する。なお、利用者の死亡事故や個人情報の流出等、重大な事故や不祥事が発生した場合は、行政システム改革推進課に任意の様式により速やかに報告書を提出する。

* 特になし。

発生日	概要・対応状況等
月 日	
月 日	
月 日	

8 随時モニタリングの実施状況

〔 事故や不祥事の発生等に伴い、施設所管課が随時モニタリングを実施した場合は、調査内容や結果を記載する。 〕

* 該当なし

実施日	対応者等	経緯・調査内容	調査結果
月 日			
月 日			

9 上（下）半期の所見等

〔 1～8の各項目の状況等を踏まえ、指定管理業務をより効果的・効率的に推進する観点から、反省点や改善策等を記載する。 〕

<p>指定管理者</p>	<p>(特別展について)</p> <p>「小泉八雲展」で観覧者数が9千人を超えた要因の一つは、現在も多くの愛読者を持つ『怪談』の作品集を大きく取り上げたことにあると考える。中高年を中心とした根強い八雲人気に加えて、若年層の関心を掘り起こそうという当館の意図が幅広い層の動員に繋がったのではないかと。高校生以下の学生比率は、上半期開催の城山三郎展の2%に比べ、6%と上昇し、県内外の学校からの団体観覧者数を見ても、教育機関との連携が数字となって現れたと言える。QRコードや携帯サイトなど新メディアへの対応も軌道に乗り、今後は高校生有料化が逆風にならないよう細やかな配慮が必要とされる。</p> <p>(その他事業について)</p> <p>2011年1月の神奈川芸術劇場のオープンを記念して開催した映画「黒蜥蜴」(江戸川乱歩原作、三島由紀夫劇化)上映会には多くの観客が訪れた。同時期に開催していた常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち展 第3部 太宰治、三島由紀夫から現代まで」では、新たに三島由紀夫コーナーを拡大し、神奈川芸術劇場の舞台「金閣寺」との連携企画とした。横浜から世界に向けて情報を発信していくという神奈川芸術劇場とは、今後さまざまな形での連携を模索していくこととなるだろう。</p> <p>(その他)</p> <p>3月11日に東日本大震災が発生し、防災マニュアルに従い、余震が続く中、職員はスムーズに避難誘導、安全点検などの任務を遂行した。幸い施設への被害はなかったが、訓練と実際とは大きな差があり、地震防災マニュアルの見直しと本震後の対応などについても見直しをこまめに行っているところである。3月22日には当振興会の公益認定について審議する県の公益認定等審議会が開催され、「認定の基準に適合すると認める」との答申が知事宛に出された。その後、31日に県知事から当振興会宛に認定書が交付されたのを受け、4月1日付で公益財団法人の設立登記を行った。</p>
<p>施設所管課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業については、展覧会で城山三郎、開高健、小泉八雲など知名度の高い作家を取り上げるとともに、展示に関連した各種事業の充実を図ることにより、入館者増に取り組んでいる。 ○ 運営管理については、来館者の要望にできるだけ応え、概ね良好になされている。 ○ 平成23年度から65歳以上及び高校生が有料化される。全体の約3割を占める65歳以上の有料化によって、大幅な入館者数減を起ささないよう、魅力ある展覧会の開催と講演会等各種事業の充実を図り、これまで以上に利便性の高いサービスの提供に努めていただきたい。

